No.1　平成８年（1996）1月15日　京都市下京区役所地域振興室　〒600 下京区西洞院通塩小路上る東塩小路町608-8　☎(075)371−7101　京都市印刷物第70381号

下京のひびき

市民しんぶん
下京区版
1/15

人口概数	70,570人
男	32,929人
女	37,641人
世帯数	30,860世帯

（平成７年10月１日現在）

魅力ある情報を乗せて
「区版創刊号」発進！

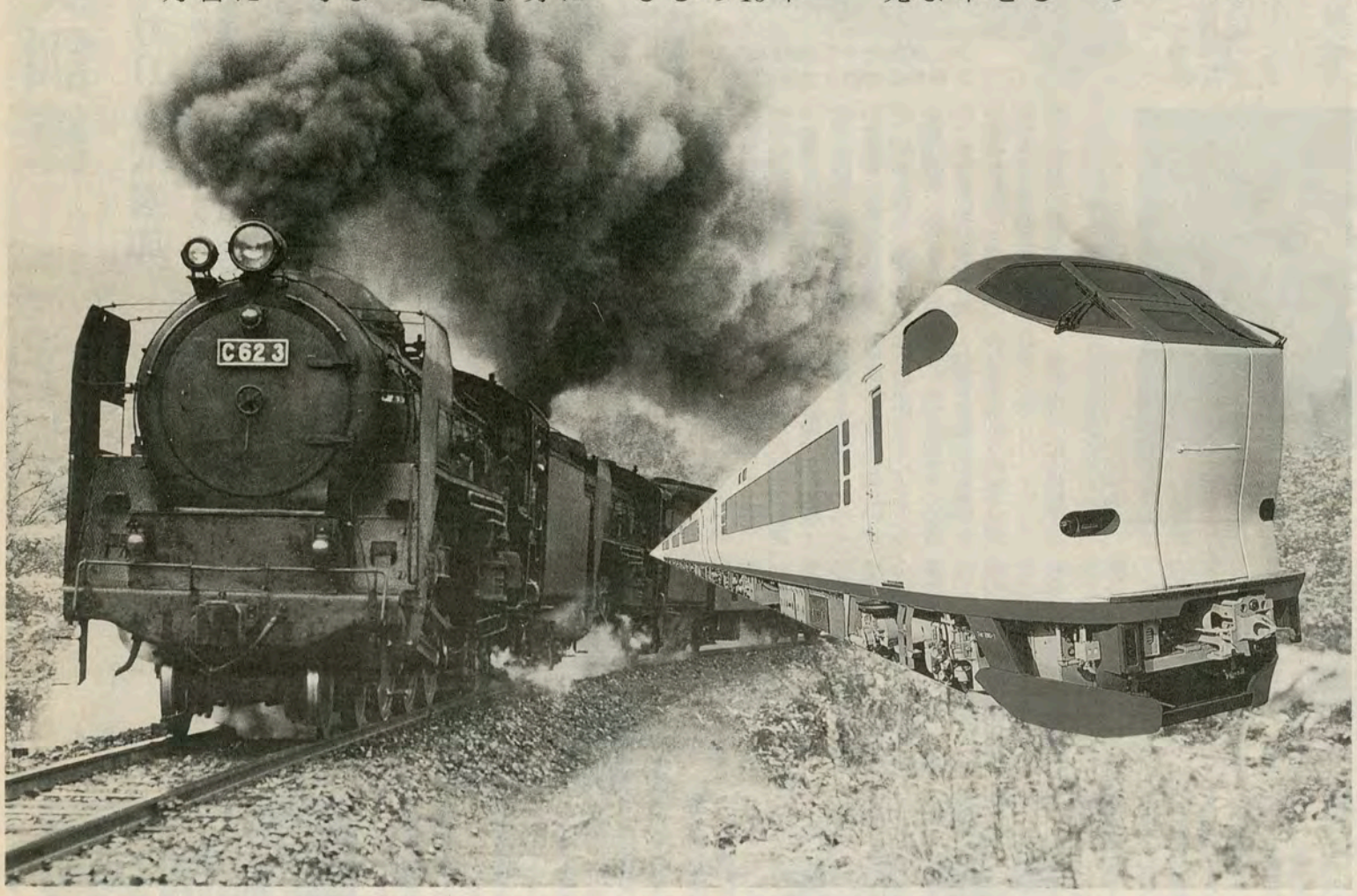
京都市長
田邊朋之

新年明けましておめでとうございます。

このたび、「市民しんぶん」の下京区版を創刊いたしました。「市民しんぶん」はこれまで毎月1日と15日に発行しておりましたが、「平成の京（みやこ）づくり」推進のための市政改革の一つとして、毎月15日号をそれぞれの区の個性を生かし、独立して各区役所で発行することになりました。

下京区民の皆さんには、これまで以上に身近で、よりきめ細かな生活情報をお届け出来るとともに、区役所と区民を結ぶ地域コミュニティ紙として大きな役割を果たすものと考えております。

今後、より充実した紙面づくりに向け、皆さんのご支援・ご協力をお願いいたします。



1996年の
年頭にあたって

下京区長　中村　誠伺

新年明けましておめでとうございます。

下京区民の皆様方にはご壮健にて新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、下京区政推進に当たり格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

新春よりこの「市民しんぶん」下京区版を、毎月15日に区役所が「下京のひびき」の名称で発行します。

これは、昨今の情報量の増大により区単位の催しや生活情報等について、きめ細かく情報を収集・発信し地域の特性を生かした文化の香り高い魅力ある広報を行うためです。

さて、安全で豊かな住み良い下京区を築くためには、高齢化社会を見据えた福祉の充実、京都駅の改築など世界に向けた地域開発、地場産業の振興と商業地の活性化及び生涯学習・生涯スポーツの振興が大きな課題です。これらの解決に向け、関係機関のご協力を得て強力に推進していきます。更に、この事業推進には、地域社会の活性化と区民の連帯が必要であり、「下京区ふれあい事業」などに積極的に取り組んでいきます。

最後に、私ども区役所職員一同、市民サービスの向上と下京区発展のため全力を傾注する所存ですので、今年も区政に対しまして皆様方のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

きっと懐かしい　ずっと新しい　ときめき京都

初の区総合防災訓練

梅小路公園 区民ら約4、000人参加

区役所、消防署や区内の防災関係機関などでつくる「下京区防災会議」は、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて、大災害が発生した場合の地域（区、学区、町内）における防災体制の確立を期すために、平成7年11月26日（日）「梅小路公園」を中心に、区民の皆さんと防災関係機関が一体となった、区として初めての総合的な防災訓練を実施しました。

「下京区に震度6の烈震」を想定

訓練は「午前9時30分、京都府南部を震源とするマグニチュード7の直下型地震が発生。京都市内は震度6以上の烈震に襲われ、下京区内では、多くの家屋やビルの倒壊、火災等による負傷者が多数発生。ライフラインが壊滅的な被害を受け、火災の延焼拡大により多数の区民が広域避難場所への避難を必要としている。」という想定のもとに実施しました。

会場となった「梅小路公園」では区内23学区の自主防災会など区民約3、000人を含め、区役所、消防署、消防団、警察、NTT、関西電力、大阪ガス、隣保館、福祉事務所、保健所、清掃事務所、土木事務所、交通局、水道局らの関係機関など合わせて約4、000人が参加。車両44台、ヘリコプター1機が出動し、本番さながらの大規模な訓練を繰り広げました。

消火活動をする消防隊員㊤と整然と避難する区民㊦

一次避難から二次避難へ

午前9時30分に訓練を開始。まず約3、000人の区民が、町内ごとに自主防災会の誘導で近くの小中学校など一次避難場所に避難したのち、現地災害対策本部からの避難勧告を受けて、下京区の広域避難場所である「梅小路公園」に二次避難訓練を実施。

会場では、現地災害対策本部の設置からスタート。被害情報の収集・対策協議等の訓練を行いました。

消防署は、消防隊による消火訓練や、阪神大震災での救助を体験した救助隊が、倒壊家屋からの被災者の救出訓練に取り組んだほか、救急隊が保健所と連携して応急救護所を開設し、ボランティア参加の病院医師・看護婦の救護班とともに負傷者の応急救護にあたりました。

また、消防団による放水、口からの避難、通信回線・ガス管・水道管などのライフラインの応急復旧のほか、自主防災会による応急給食、臨時公衆便所の設置・給水・道路上の障害物除去など実践的な訓練を展開しました。

講評に立った中村誠伺災害対策本部長（下京区長）は「早朝からたくさんの皆さんにご参加いただき、心から厚くお礼申し上げます。区民の皆さんの防災への関心の高さを改めて実感するとともに、各自主防災会の日頃の活動成果が見事に発揮されたものと感じています。今後とも区民の皆さんと防災関係機関との連携をはかり、より安全で住みよい下京区にしたいと思います。」と述べました。

地震防災対策の充実・強化

京都市では、昨年6月に平成7年度京都市防災会議を開催し、本市における地域防災計画の見直しに着手しました。具体的には、災害発生時の初動体制の強化、避難計画の整備、備蓄体制の整備充実・緊急物資確保体制の整備、防災対策のための各種調査研究の推進、防災関係機関相互の連携強化などの取組を推進します。これにより、災害に強い、市民が安心して暮らすことのできるまちづくりを目指していきます。

下京区でも、この方針を踏まえ「下京区防災活動計画」の見直しに取り組んでおり、また今回の総合防災訓練を通じて、区民の皆さんの防災に対する積極的な理解と協力をより深め、区民の皆さんと防災関係機関が連携・協力し総合的に災害に対処できる体制づくりを進めていきます。

（写真提供　谷口　敏子さん）

被害情報の収集にあたる現地災害対策本部

季節のたより1月

═獅子舞═

獅子舞とは、獅子の頭を持って舞う芸能で、古く、唐の国から伝わり、現在では全国の春秋の例祭やお盆、正月などにも広く演じられます。

肩車に乗ったり、トンボ返りをしたり、はしごに上がったりするなど、いろいろな技を演じることもあり、太神楽からきているとも言われています。

太神楽というのは、伊勢神宮の代参の形で行われた祓えの信仰にもとづいて、村々家々を廻り、悪魔祓いや家族安泰、五穀豊穣の祈りの舞を舞うもので、これが各地に伝習されたと言われています。

地方によってはこの獅子に噛んでもらうと病気にかからないとも言われています。

下京区では、中堂寺六斉念仏（国の重要無形民族文化財）の演目の中に「獅子舞と土蜘蛛」があります。

写真提供・谷口　稔さん

人権啓発ポスター 入選作品決まる

下京区役所では、12月の人権月間の催しの一つとして、区内の小・中学生に人権啓発ポスターの制作を依頼し、小学生77点・中学生30点の応募がありました。

子どもたちは、人権の尊さを、あざやかな色彩や、大胆な構図で表現しました。

応募作品は、大丸百貨店で展示を行い、最優秀賞、優秀賞の入選者については、12月1日の『人権を考えるつどい』の中で表彰を行いました。

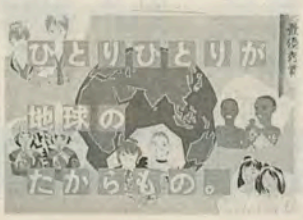
入選者は次のとおりです。（敬称略）

◆小学校

最優秀賞＝前田平宗（洛央1年）＝写真左▽優秀賞＝三浦正貴（醒泉4年）、速見幸一（崇仁3年）▽佳作＝池田　瑛（洛央6年）、伊藤真也子（植柳6年）、大西北斗（醒泉5年）、本田有美（大内4年）、香山佑介（七条3年）、平櫻真奈（七条第三2年）、佐藤友哉（光徳2年）

◆中学校

最優秀賞＝占部早紀（成徳3年）＝写真右▽優秀賞＝池上晃代（郁文1年）、吉岡亜希子（成徳1年）▽佳作＝中西万奈（成徳3年）、東　真弓（七条2年）、安達美沙子（梅逕2年）、杉谷典子（成徳2年）



わがまち再発見 ▶1◀

天神信仰発祥の神社 文子天満宮（あやこてんまんぐう）

（間之町通花屋町下る）

年も改まり、いよいよ受験シーズンも本番を迎えて、今年も上京区の北野天満宮には多くの受験生が訪れていることでしょう。

困った時には神頼みということで、合格祈願が、その北野天満宮が天神信仰発祥の神社と認めているという神社がこの下京区にあります。間之町通を七条通から上がっていき、渉成園（枳殻邸）を過ぎて西側にある文子天満宮がそれ。

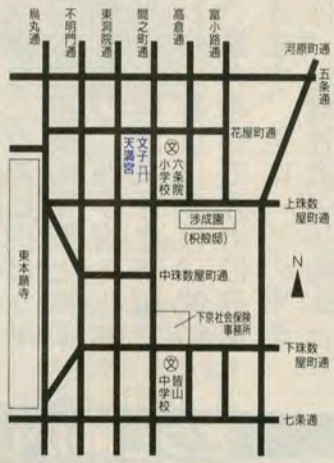
〝文子〟というのは、天神菅原道真の乳母多治比文子からとられた名前で、この神社が建つ場所に住居があったと言われています。

32歳で文章博士となり、後に57歳で従二位右大臣に任じられた道真ですが、左大臣藤原時平のざん言により、太宰権師として九州太宰府に左遷させられることになりました。

道真は太宰府へ出立の際、文子に別れを伝えるためにこの地を訪れ、道真手彫りの御像を与えたと言われています。

後に道真が太宰府で亡くなったのを聞いた文子が、庭前に祠を作り御像を祀ったのが、神社の起源とされています。

境内は小さいが由緒は古い文子天満宮、勉強の合間の息抜きにちょっとお参りしてみてはいかがでしょうか。



information お知らせ

問合せ先
下京区役所　371-7101(代)
下京福祉事務所　371-7101(代)
下京保健所　351-9025
下京消防署　361-4411
下京青年の家　314-5636
下京図書館　351-8196

無料税務相談

税の申告期を控え、税について税理士が相談に応じます。

日時　1月23日（火）・30日（火）午後1時～3時30分
場所　区役所地域振興室4階会議室
問合せ　区役所地域振興室

給与支払報告書等の提出

給与支払者・年金支払者の方は、給与支払報告書・公的年金等支払報告書を1月31日までに下京税務署（☎351・9161）へ。

福祉事務所

▽民生委員・児童委員
民生児童委員は3年毎に改選され、平成7年12月に厚生大臣の委嘱を受けて新委員が誕生しています。
下京区には178名の民生児童委員・24名の主任児童委員が、経済的に困難な方だけでなく、お年寄りから子どもまで、広く身近な福祉の問題について相談に応じています。
お住まいの地域の民生児童委員に、お気軽に相談ください。

保健所

▽乳幼児健康相談
日時　1月25日（木）・2月8日（木）午前8時30分～10時
▽基本健康診査・肺がん検診・成人歯科相談
日時　1月22日（月）午前9時～10時30分（要予約）
その他、次のとおり、各種相談日を設けています。
▽精神保健相談
毎週月曜日　午後1時30分～3時30分
▽エイズ相談・血液検査
毎週火曜日　午前9時～10時30分
▽ジフテリア・破傷風第2期予防接種
今年から次のとおり医療機関で実施します。
対象者　11歳～12歳の児童（小学6年生）
実施期間　1月～3月まで
実施場所　予防接種協力医療機関
料金　無料
その他　対象児童については、学校を通じてお知らせしています。問合せは、保健所まで。

消防署

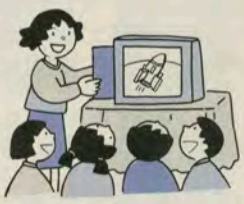
▽文化財防火運動
文化財防火や愛護の意識を高めて行くため全国一斉に、1月23日（火）～29日（月）の期間実施します。
今年のスローガンは、「みんなで文化財を火災からまもろう」です。
下京区では次の行事を行います。
☆文化財仏画ポスター展
期間　1月23日（火）～29日（月）
場所　ポルタ中央広場
内容　有名画家が描いた過去の文化財火災予防運動の仏画ポスターを展示

青年の家

▽下京青年の家
＊しもせい環境塾①「水とつきあう」
日時　1月28日（日）午後1時～3時
内容　命をはぐくむ水の循環等について学ぶ
講師　山本幹彦氏（京都ユースホステル協会）
参加料　無料
定員　20名
申込み　先着順（電話可）
英検2級資格取得を目指した集中講座
日時　1月23日～3月26日　毎週火曜日　全10回午後7時～9時
内容　資格として認められる英語検定2級取得を目指した集中講座
講師　谷端孝康氏（立命館宇治高校英語教師）
受講料　4、000円（10回分、テキスト代別途）
定員　20名
申込み　先着順（電話可）
▽その他の青年の家の催し
西陣（☎451・6700）
ボクサネス教室
エアロビクス教室
短期料理教室
＊親子関係を楽しくする知恵Ⅲ～体験して分かる子供心・親心～
日時　1月28日（日）午後1時～4時30分
中京（☎231・0640）
エアロビクス教室
能率アップトレーニング教室
ストレスコントロール教室
東山（☎541・0619）
＊足ツボ療法足心道入門
日時　1月28日（日）
A　午後1時～3時30分
B　午後2時～4時30分
山科（☎593・4911）
ボクサネス教室
和菓子講習会
冠婚葬祭のマナー教室
＊短歌一日入門教室
日時　1月28日（日）午後1時30分～3時30分
南（☎671・0356）
毛筆・ペン字教室
ウエイトトレーニング教室
ウエルネス教室
＊魔法の一本針体験講座
日時　2月25日（日）午後1時～3時
伏見（☎611・4910）
絵画教室
柔道教室
点訳教室
参加資格　15歳から30歳までの働いている方で、市内にお住まいか勤務先のある方(30歳までの主婦も可)。
＊は市内にお住まいか勤務先のある方(年齢制限なし)
詳しくは、各青年の家、または市政情報案内サービス（NTTハローダイヤル☎231・8600）までお問い合わせください。

図書館

お楽しみ会
①日時　1月25日（木）午後3時から
内容　絵本の読み聞かせ「おにのおめん」・交通安全のおはなし
②日時　2月10日（土）午前11時から
内容　紙芝居「こぶたのまーち」・しおり作り（無料・材料は当館で用意）
☆場所はいずれも1階幼児室の開催などの事業に取り組んでいきます。
詳しくは事務局（下京税務署　☎351・9161）または、区役所課税課までお問い合わせください。



特設コーナー
1月20日（土）まで3階に「成人の日」にちなんだ図書コーナーを設置。
図書のご案内
多くの被害をもたらした阪神・淡路大震災から1年が経ちました。被災者の皆様の一日も早い再建を願うとともに、資料を通して地震への認識を深めて頂くために、関連の新着図書の一部を紹介します。
「震度7が残した108の教訓」　荒尾和彦
「お母ちゃん神さまがおこらはったん?」　阪神大震災を記録する会
「地震から家族を守る日曜大工」　伊東義高
「災害救助犬走る!」　坂井貞雄
「悲しみが勇気となるまで」　今西憲之

下京・南区に租税教育推進協！

私たちは、国民の義務として税金を納めていますが、税の意義や役割、その仕組みなど十分に理解しているでしょうか。
特に将来を担う児童や生徒の皆さんがこれらのことを理解することはとても重要です。
そこで、学校教育の中で税について理解を深める機会や、税に関する情報の普及を図るため、教育機関、民間関係機関、税務官庁で構成する租税教育推進協議会が、下京区、南区内を対象に平成7年10月16日に設立されました。
今後は、児童、生徒や市民を対象とした租税教室の開催などの事業に取り組んでいきます。
詳しくは事務局（下京税務署　☎351・9161）または、区役所課税課までお問い合わせください。

あなたの作品を発表しませんか 区民ギャラリー写真募集

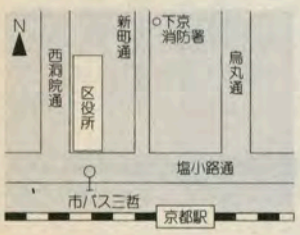
下京区ふれあい事業実行委員会では、写真を趣味とされている区民の皆さんの日頃の成果を発表していただく場として、下京区民ギャラリーに展示する写真を募集します。
お手持ちのスナップ写真から秘蔵写真まで内容は問いませんのでどしどしご応募ください。
応募資格　下京区内にお住まいもしくは通勤通学の方。写真の裏に、「住所・氏名・電話番号・作品のタイトル」を明記。
写真のサイズ等　四つ切(25・4cm×30・5cm)でモノクロ・カラーは不問。
その他　出品費用は無料。点数は問いませんが会場の都合により展示出来ない場合有。優秀作品には賞品を進呈。
主催　下京区ふれあい事業実行委員会
問合せ　区役所地域振興室

「下京区民ギャラリー」は次のとおり開催します。
展示期間　3月1日（金）～15日（金）
展示場所　下京区役所1階ロビー
テーマ　自由
応募方法　写真を区役所地域振興室まで直接持参。
応募期間　1月16日(火)～2月20日（火）

地元になじみ深くバラエティーに富む

事業所紹介 <1> 区役所地域振興室

このコーナーでは、よく知られているようで以外に知られていない、区内の行政機関について紹介していきます。第1回は、区民の皆さんに一番身近な下京区役所地域振興室を紹介します。
区役所は市民窓口課・課税課など1室4課に分かれています。そのなかで業務内容がバラエティーに富んでいて地元の方となじみが深い地域振興室は大きく分けて広聴振興担当・企画総務担当の2つの部署があります。
広聴振興担当は、3つの担当に分れています。
事業担当は、ふれあい事業や京都まつり・市民ぐるみ運動などの事業を、また下京再発見として、地元の史跡を皆さんに紹介したり、振興担当は、区民ソフトボール大会や学区民運動会など各種スポーツ行事を実施している体育振興会や共同募金会・日赤・文化懇話会・区防災会議などの事務局を担当しています。
統計担当は、昨年実施された国勢調査や商業調査など各種統計事務や、京都市長選挙・衆議院議員選挙などの事務を行う選挙管理委員会事務局を担当しています。
総務担当は区役所の庶務・計理や、市民しんぶん下京区版の発行などを担当しています。
いずれも地元の皆さんの協力をもとに進められています。
区役所の所在地は次のとおりです。



区内の催し

1／15～2／14

1／15(祝)　**大内学区防火防災のつどい**
9:30～　大内小学校
主催　大内学区自主防災会

第10回修徳ふれあい広場
10:00～　元修徳小学校
主催　修徳学区自治連合会

光徳新春のつどい
10:00～　中堂寺公園
主催　光徳学区自治連合会

2／10(土)　**やきいも大会**
9:00～　西大路小学校
主催　西大路学区自治連合会

＊11月末日現在事務局で把握している催しです。詳しくは主催者へおたずねください。

◆大内学区防火防災のつどい（1／15）

大内学区では、今年一年学区民の無病息災を願って防火防災のつどいが行われます。「昨年11月26日に行われた下京区総合防災訓練の経験を生かし、より迅速に避難できるように実施したいと思っています。また、避難訓練終了後は、大内小学校で餅つき大会やお楽しみ抽選、昨年のイキイキサタデーで作った羽子板・凧の展示会、凧あげを行い、校区あげての新年フェスティバルとして、学区民のふれあいの場にしていきたいので、多数の皆さんのお越しをお待ちしています。」と、大内学区市政協力委員連絡協議会の鳩田重夫会長は話されています。

◆第10回修徳ふれあい広場（1／15）

今年も修徳ふれあい広場が元修徳小学校で開催されます。10回目の節目の年となる今回について、修徳学区自治連合会の篠原實会長は、「ふれあい広場は、運動会・自主防災会と並んで、学区事業の三本柱の一つです。家に閉じこもりがちなこの時期、新年を祝い、また学区民の健康を願い『みんなで築こう楽しい修徳』のスローガンのもと、色々と趣向をこらし、10周年記念にふさわしい盛大なふれあい広場を計画しています。また、近隣学区の皆さんとも交流の場としていきたいと思っていますので、修徳学区民に限らず多数の皆さんの参加をお待ちしています。」と、話されています。

にぎわった第9回の修徳ふれあい広場

Q&A　20歳になれば国民年金？

Q.　20歳になったら国民年金に加入しなければならないと聞きましたが、収入のない学生でも加入しなければならないのでしょうか。その場合、保険料はどうなるのでしょうか。

A.　すべての国民ひとりひとりが平等に年金を受け取る権利を持つために、20歳以上の人は国民年金に加入することが義務づけられています。また、国民年金は老後の保障だけでなく、定められた障害の状態になったり亡くなられた方に扶養されていた妻や子が残された時などにも年金が支払われます。このように国民年金は老後のためだけでなく、若い時の「もしも」に備えるものと考えることができます。

学生も例外ではない

次に保険料についてですが、平成7年度の保険料は月額11,700円になっています。保険料は年齢・性別・所得額にかかわらず加入者全員一律です。学生の方も第1号被保険者として所定の保険料を収めていただく事になります。特に、学生には所得がないことが多いので、保険料の納付が困難な場合には、親の所得により保険料を免除される制度があります。

詳しくは、区役所保険年金課年金係（☎371・7101）までお気軽にお問い合わせください。

髙橋氏が優秀賞受賞

市民しんぶん下京区版 名称公募に62点

今月から発行した「市民しんぶん下京区版」の名称は、62点の応募の中から「下京のひびき」に決定しました。

優秀賞に輝いた方は、下京区梅逕学区の髙橋新作さんです。髙橋さんはこれまでにも交通安全の標語などでも受賞されたご経験があり、今回も7点の応募をされ、受賞となりました。

髙橋さんは、「とても光栄に思っています。あれこれ、考え過ぎないようにパッと浮かんだことや思いついたことをイメージして応募しました。『ひびき』という名称には、行政から区民の皆さんに響きわたるような余韻のある情報を発信してほしいという思いを込めたつもりです。区版は区民の意見や要望などをどしどし取り入れて、親しみやすい紙面づくりをしてほしいと思います。」と受賞の喜びと、区版への期待を語ってくださいました。

受賞された皆さんは次のとおりです。

優秀賞
「下京のひびき」　髙橋新作さん

佳　作
「下京区民瓦版」　森本達也さん
「いきいき下京」　小西美希さん
「しもぎょう　きのうきょうあす」
「やくどうしもぎょう」　佐藤洋さん
「京の鑑（みやこのかがみ）」　上羽章夫さん　髙原清史さん

区長から表彰を受ける髙橋さん

編集部から

「下京のひびき」は地域に密着したしんぶんにしていきたいと思いますので、ご意見ご要望がありましたら区役所地域振興室　下京のひびき　編集部までお寄せください。（〒600　下京区西洞院通塩小路上る）

学区紹介　郁文

このコーナーでは、下京区の23元学区を紹介していきます。第1回目は郁文学区で、自治連合会の神田實会長・中島良太郎副会長にお話を伺いました。

“郁郁乎文哉（いくいくとしてぶんなるかな）”の志高く

◇学区の地勢

郁文学区は、下京区の西北部に位置し、四条通・堀川通・松原通に囲まれ、南北に大宮通が縦断する非常に交通量の多い地域です。また、北端に位置する四条大宮には、阪急電車や京福電車が発着し、ターミナル駅を形成しています。

昔の面影を残す郁文中の石造りの校門

◇地域の歴史

応仁の乱以前は商業の盛んな地域で、祇園会に4基の山鉾がでていたと言われています。近世に入り、豊臣秀吉の町割りによって、大宮通から西側に寺院街が、東側に同業者町が形成され、今日の基礎となっています。また、堀川沿いには友禅染関係の店が並び、堀川での友禅流しは風物詩となっていました。「私の小さい頃は、堀川もきれいで夏にはよく泳いでいました。堀川が暗渠になってからは、友禅の仕事もだんだんとやりにくくなったようです。」（中島副会長）

◇郁文校

「郁文」の名は、小学校に由来しています。前身は明治2年に岩上仏光寺に建てられた下京第7番組小学校で、明治10年現在の大宮通綾小路下るに移転した時に、当時の槇村正直京都府知事が、校舎移転に功績のあった林文郁下京区長にちなみ「郁文」と名付けました。また、論語に“郁郁乎文哉”という一節があるように、「郁文」とは文物が盛んな様子を指しています。

その後、昭和3年には、当時全市で例のない鉄筋コンクリート造り4階建の校舎が竣工しました。校舎の屋上には京都の学校で唯一の天文台があり、その赤胴色のドームは“天文台のある学校”のシンボルとして生徒や父兄に親しまれていました。

戦後は、旧制小学校から中学校となり、郁文学区だけでなく、格致・淳風・醒泉の生徒も通うようになりました。昭和63年、校舎の老朽化が進んだため、新校舎が建てられて現在に至っています。「昭和30年代の体育館改築、運動場拡張、新校舎建設の時も、昭和63年の新校舎建設の時も、郁文学区民だけでなく、格致・淳風・醒泉の学区民の方には多大なご支援・ご協力をいただき、とても感謝しています。」（神田会長）

◇学区の現在

「友禅染関係の企業が不景気で衰え、代ってマンションが立ち並ぶようになり、学区の町並も変わってきました。学区の役員のなり手が少なく困っていますが、催しを企画しますと役員の皆さんも熱心に取り組まれ、おかげで昔よりもたくさんの方々に参加いただけるようになりました。催しを通じて知り合った小学生が、道で声をかけてくれるようになり大変喜んでいます。これからもお年寄りと子どもを大切にし、『郁文』の名に恥じないよう文化の香り高い学区にしていきたいと思います。」（神田会長）

各種団体紹介　市政協力委員連絡協議会

区内で609人に委嘱 市政を円滑に運営

このコーナーでは、区内で活躍されている各種団体をシリーズで紹介します。

第1回目は「市政協力委員連絡協議会」です。市政協力委員制度は、昭和28年に市政の円滑な運営と行政能率の向上をはかるために設置されました。

市広報板にポスターを張る市政協力委員

下京区では現在609人の方に委嘱しており、その主な仕事は、

・市民しんぶんをはじめとする広報物の配布、諸通知の伝達
・交通災害共済など市政の普及、徹底
・区民の行政への要望の取次などです。

また、各学区単位で連絡協議会が置かれ、その会長が集まって連絡協議会会長会が構成されています。会長会では、市長・区長を囲んで懇談する市長・区長懇談会を開催し、区民の身近な要望事項や区の将来展望について、話し合う場を設けています。

いろいろご苦労も多いこの仕事について市政協力委員制度の発足以来委員を務めていただいている、永松学区市政協力委員連絡協議会会長で、会長会世話人として活躍しておられる山本米太郎会長にお話を伺いました。

――特に苦労されたことはありますか

「特に苦労したことというのは無いですね。私は昭和41年から永松学区の協議会会長を務めていますが、これだけ長い間させていただけるのも、学区民の皆さんのご協力があればこそと思っています。何か問題が起こっても、町内で対応してくださったり、委員に一任していただいていたのでとてもやりやすく感謝しております。」

――制度が始まった頃と今と比べて何か違いはありますか

「最近は各分野の広報物が増えたからか、仕事の量自体は増えました。また、昔は会合等で区役所に行くのは年に2～3回で、他の学区の会長とも顔見知り程度でした。現在は行政機関や各学区の会長さんと接触する機会も増え、行政と地元の距離は縮まってきたように思います。今後とも市政協力委員として京都市政に協力し、住みよい下京区を目指したいと思います。」

区民の方の要望が多彩になってきている中で、市政協力委員の役割もますます重要なものとなっています。